印刷・レイアウトを理解しデータ作成をするための教材の開発

産業デザイン科　齋藤　幸子

1　はじめに

DTP・グラフィックデザインの作業ではドロー系.画像処理.組版などそれぞれ目的に応じたアプリケーションが活用されている.

アプリケーションはそれぞれの概念に基づき開発され提供されているものの.実際にその利用法を学ぼうとすると，単に「見た目」や操作方法の習得を重要視してしまう傾向にある.

本研究では将来，DTP オペレーターやグラフィックデザイナーとして働く学生たちが，印刷の知識・技術と印刷メディアに対応したデータの作成方法・習慣を効果的に身に着けることを目的とする.

2　今年度の授業運営の概要

平成 30 年度前期にグラフィックデザイン分野（以下、「GD 分野」という）を選択した 2 年生に対する授業の内容は下記のとおりである．1 年後期の基礎的な知識と技術をベースとして，継続性と関連性を保てるようにカリキュラムを構成している.

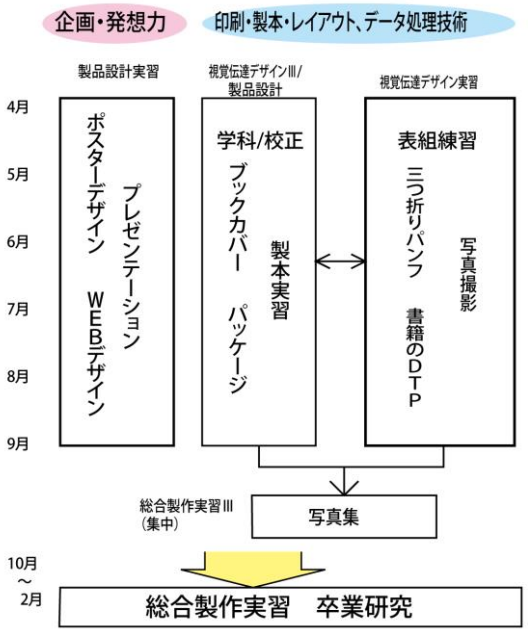

図１　２年生前期 GD 分野カリキュラム

2.1　製品設計実習の内容

（＊は本研究のテーマ対象となる訓練）

内容：ポスターのデザイン（＊）　WEB デザイン　プレゼンテーション（＊）　インデザインの基礎

ポイント：ファイル形式　アウトライン化

2.2　視覚伝達デザインⅢ／製品設計の内容

内容：ブックカバーとパッケージのアイデアワーク　製本実習　学科（広告デザイン）　校正　表組練習（＊）　ブックカバーとパッケージ制作（＊）

ポイント：細かな文字組　表組　半立体　立体物の制作

2.3　視覚伝達デザイン実習の内容

内容：三つ折りパンフレットの制作（＊）　書籍の DTP 処理（＊）　写真撮影（カラーリバーサル）

ポイント：折り加工とデザイン　インデザイン復習・機能の学習

2.4　総合制作実習Ⅲ（集中）の内容

内容：写真集（＊）　視覚伝達デザイン実習で撮影した写真と各自が作成する文章により構成

ポイント：企画・編集業務　DTP 処理と本の装丁の復習

3　問題点の抽出

それぞれの教科・課題におけるデータ制作上のミスや学生が理解した点，理解しにくかった点等は次のとおりであった.

3.1　製品設計実習

提出時のプレゼンテーション用のデータに関して数名の学生にデータの修正が必要であった．なお，単一のソフトウェアを活用する課題の場合にはミスが少ない.

3.2　視覚伝達デザインⅢ／製品設計

3.2.1　表組練習

当初は戸惑っていたが，慣れるに従いこだわりを持って取り組めるようになっている．講師パソコン掲示用モニタを使用した実演形式の説明が行えたことは良い結果につながった.

3.2.1　ブックカバー

書籍のカバーの折りや，構造の理解が困難な様子である．また，書籍その物との接触する機会，関心や理解が薄いことは大きな問題であった.

3.2.2　パッケージ制作

興味を持って取り組む姿勢が見られた．実技テスト形式の練習が有効であった.

3.3　視覚伝達デザイン実習

3.3.1　三つ折りパンフレットの制作

三つ折りの構造についての誤認が数名見受けられた．画像の点数が多かったためか，データ作成上のミスが半分以上の学生に見られた．４色印刷と特色を使用した２色刷り印刷は実践できている．

3.3.2　書籍の DTP 処理

製品設計でカバーを制作した書籍の DTP 処理を行ったが，根気強く長いページ数を処理していくことに対して，個人差が顕著であった．

3.4　総合制作実習Ⅲ（集中）

この授業で制作する写真集は視覚伝達デザイン実習で撮影した写真と各自の文章により構成するものであるが，当初，サムネールや台割りについての理解やアウトプットが難航した．しかし，終盤には１年間のまとめとしての制作に対して，意義を持って望む様子が見受けられた．また，データ作成上のミスは，ほぼなかった．

4　新しい教材の目標と内容

前述の問題点に対応していくため，これまで，板書やプリントの配布，口頭での指示を行っていた教材を下記の目標の下，WEB 形式でまとめ，効果的な授業運営をめざすこととした．

・一斉授業でない場合に応じられるツールとすること（綾織り式のカリキュラム　欠席者や遅刻者が自ら学習できる環境にもつながる．）

・作業の遅れがちな学生への対応により授業の進行が滞るなど，個人の能力差が全体のマイナスにならないツールとすること

・授業準備の効率化が図れること

4.1　構造

新たな WEB 形式の教材の構造は図 2 に示すように下記に構造を示すように CSS ファイルが 1 ファイル，HTML ファイルはトップページと kadai フォルダ内の子ページ 11 ページの計 12 ページ．課題配布フォルダと子ページのリンク画像用ファルダ(images)で構成している。

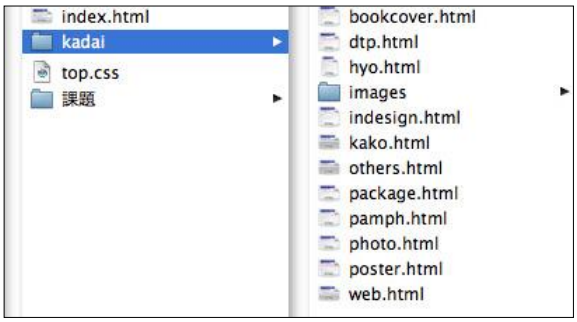

図２　WEB 形式の教材の構造

4.2　内容

4.2.1　TOP ページ

index.html ：目的を明記. 全体の流れを説明

4.2.2　課題ページ

①hyo.htm：表組の練習　②bookcover.html：ブックカバー　③package.html：パッケージ
④indesign.html：インデザイン基礎
⑤pamph.html　：三つ折りパンフ　⑥dtp.html：書籍の DTP　⑦photo.html　写真集
⑧poster.html ：生命の星・地球博物館ポスター

なお，これら①～⑧には「課題名と目的や学習内容」「配布データの説明」」「必要書類の PDF 形式での配布」「制作方法と工程の説明」「提出方法の指示」「その他技術的な情報」といった内容が含まれている．

4.2.3　WEB 用とその他のページ

①WEB 用は来年度以降を考慮し現在はページのみ
②その他では出力やすべてに共通する技術的な項目を提供．③過年度は参考となる過去の学生作品．

5　学生意見に基づく評価

2 年生 GD 分野選択生の内で特に指示の理解や技術的な問題でミスの多かった学生に WEB 教材に対しての意見を聞いた．その結果，「各ページに図やイラストなど視覚表現として説明があるともっとわかりやすい．」「仕上がりの見本が各ページにあると目的がわかりやすい」等の意見があり，現在の構造では不足している点を認識できた．

6　今後の予定

次年度は訓練用の PC システムが更新になることから，ソフトウェアのバージョンや周辺機器も変更となり，配布ファイルと技術的な説明資料の修正等の対応が必要になる．従って今年度作成した WEB 教材について学生の要望も取り入れる形で修正等の対応を行い，平成 31 年度 2 年前期選択授業で活用をしていく．

7　終わりに

今後も，よりスムーズかつ応用の効く授業運営を目指すとともに，印刷・レイアウトについて理解し実践的なデータを作成できるカリキュラムと教材の作成を目指したい．

最後に，本研究を進めるにあたり質問調査に協力いただいた学生とこの機会を与えていただいた皆様に感謝する．